

中国の空中給油技術の向上

漢和防務評論 20131023（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

漢和防務評論（20131023）に、中国の空中給油機に関する記事がありましたので紹介します。

中国の現有空中給油機 H-6U 型機は、中国製の H-6 型爆撃機（旧ソ連 TU-16）を給油機に改修した機体です。台湾の軍事専門誌「軍事家」2006 年 1 月号によると、この改修には、英国とイスラエルが支援したとのこと。す。す。（漢和の記事では明確していません）

しかし H-6U では給油機としての能力が不足し、中国はロシアが開発した IL-78 型給油機を求めています。中国は給油能力の高い空中給油機を早く、安く手に入れるため、中古の IL-76 をロシア及び白ロシアから入手し、ウクライナと協力して IL-78 型給油機に改修しようとしているようです。

KDR 香港特電：

中国は、ロシア空軍及び白ロシア空軍から中古の IL-76 型機を入手しつつある。計画によると改修済みの IL-76MD 型を 20 機必要としているようだ。そのうち 10 機は 2012 年にすでに入手した。ローカルの情報源は KDR に対し：中国は積極的にウクライナと協力関係を結び一部の中古 IL-76 を IL-78 型空中給油機に改修しようとしている、と述べた。ウクライナは IL-78 に改修する能力があり、かつてパキスタンのために 4 機改修した実績がある。中国とウクライナの空中給油機改修に関する交渉は 2012 年に開始された。

現在中国空軍は、空中給油能力が不足するため J-10 型戦闘機、SU-30MKK 型戦闘機、SU-30MK2 型戦闘機、J-16 型戦闘機、及び海軍航空部隊の J-15 型戦闘機の長距離進出能力が発揮できない。中国が現在採用している H-6U 型空中給油機は J-10 に空中給油できるが、給油量が極めて限定され、2 乃至 4 機に 1 回だけ給油できるだけであり、戦術的価値をほとんどない。H-6U の最大給油量は 30 トン、通常は 20 トンである。ここで空中給油を行う位置と距離を考慮しなければならない。SU-30MK2 の燃料搭載量は 9.5 トン、したがって SU-30 のような戦闘機に 1 機の H-6U が空中給油する場合は、4 機の SU-30 に一度に 5 トン前後の燃料しか給油できない。しかもこれは理論上の話で、技術的に可能かどうかを検討すると、H-6U は、ロシア製戦闘機に空中給油することはまず不

可能である。

このほか IL-78 給油機の大きな任務は、A-50/IL-76 早期警戒機 (AWACS) の滞空時間を延ばすことである。中国空軍の KJ-2000 型 AWACS の 1 号機は空中給油装置を保有しているが、空中給油を行っている写真は見たことがない。これは、KJ-2000 を戦略的に運用する場合、巡航時間が不足することを意味する。

長距離作戦任務を行う場合、1 機の IL-78 給油機は 8 機の戦闘機に給油することになっている。通常は、同時に 2 機の戦闘機に給油する。給油量は毎分 900 乃至 2200 リッターに達する。IL-78 の通常の燃料搭載量は 50 トン、最大 60 トンである。

ウクライナが改修する IL-78 給油機の構造はロシア製給油機 IL-78ME 型に比べ簡単な構造になっている。實際上、IL-78MD 型輸送機の貨物室に燃料タンクを取付け、ロシア製の UPAZ 型給油管を取付ける。しかしロシアは、インド空軍向けに生産した新型の IL-78MKI 型給油機にはイスラエル製の空中給油システムを搭載した。ウクライナが生産する IL-78 は、おおむね 1987 年に生産が開始された初期型の IL-76MP 型に似ている。同型機は UPAZ 型給油管の取外しが可能であり、燃料タンクを搭載していない場合は取外し、輸送機として使用する。パキスタンが獲得した IL-78 給油機は IL-76MP 型である。

ロシアは、IL-476 を基礎に IL-78 に改修した。現在 IL-78-PS90 と呼称される。すなわち PS90 型新型エンジンに換装した IL-78 である。現段階では未だ試験飛行を行っていない。したがって中国は、IL-78-PS90 或いは Y-20U の誕生を待つことはできなかったのであろう。

ロシアは 2 種類の空中給油管を生産している。それらは UPAZ-1M 及び UPAZ-1A である。後者は初期型である。パキスタンが獲得した給油管は、ウクライナ空軍の中古品か？或いはロシアから購入した UPAZ-1M かどうかは明確でない。したがって要約すると、ウクライナが改修可能なのは、簡易型の IL-78 である。簡易型であるとしても、給油能力は高い。IL-78 の航続距離は 7300 KM に達し、最大速度は時速 850 KM である。中国空軍が同機を獲得することは、1 個大隊の戦闘機の連合作戦の航程が 7000 KM 近くになることを意味する。

KDR は、中国空軍の IL-76 の動きに注目している。同機は中古の機体である可能性が極めて高く、2013 年 5 月前後に、頻繁にチベット方面に飛行した。しか

も機数が多かった。このことは、中国軍、及び武装警察隊が長距離機動を極めて重視していることを示している。この 5 月のチベット及び新疆ウイグル自治区方面への兵力大移動は、同地区で発生した自爆テロ、暴動事件と密接に関連している。

当然、別の可能性も否定できない。中露の軍事協力関係が大きく改善されたため、中国はロシアが使用している中古の IL-76 を IL-78 に改修するよう要求した可能性もある。しかし現在断言できることは、双方がこの問題で正式交渉を行ったことがないことである。旧ソ連時代以来、IL-78 の改修、生産は、タシケント航空機会社とウクライナが行っていた。現在、ロシア国内では ULIANOVSK に IL-78 の生産ラインが完成したばかりである。

中国は、海軍航空部隊向けと空軍向けの 2 種類の H-6U 給油機を生産している。珠海航空ショーに出現した H-6U は、ガラス張りコクピットを廃止した機体であったが、これは空軍向けである。海軍航空部隊は JH-7 戦闘爆撃機だけを珠海航空ショーに展示した。海軍向けの H-6U は、TU-16/H-6 型爆撃機特有のガラス張りコクピットを残している。両種の H-6U は未だ大量生産は行われておらず、H-6U は J-8D シリーズ、J-10 にのみ空中給油ができる。

H-6U がロシア製戦闘機に空中給油している写真は見たことが無い。この点は、当然と言える。KDR が J-10A 及び J-8D の空中給油管を詳細に分析したところ、ロシア製の給油管とは全く異なっていた。中国の空中給油システムはどこから導入したのだろうか？イスラエル説、イラン説、英国説等各種の説がある。全体的に見ると、J-8D、J-10A の固定式空中給油管は 1970 年代の西側方式である。珠海航空ショーで中国が展示した RDC-1 型給油プループはロシア方式とも全く異なる。したがって H-6U の給油システムは中国が独自に開発したものである。このシステムがロシアの UPAZ-1M 型給油システムと整合するかどうか？大きな疑問が残る。

他に注意すべき点は、中国が J-15 及び J-16 戦闘機以後、ロシア方式の UPAZ-1M 型伸縮式給油管をコピーしたことである。したがって今後の中国空中給油技術は、ロシア方式で進む可能性がある。

以上